

南米アルゼンチンのソーシャルサーカス最前線 (2月7日港区共催のソーシャルサーカスフォーラム参加)

渡部千秋

「ソーシャルサーカス」とは、ヨーロッパで25年以上前に始まった社会的（ソーシャル）な問題を解決するためのサーカスである。

経済的貧困者、移民、身体障害者、コミュニティで阻害されがちな人たちと一般の人が一緒に体を動かしてサーカス技術の練習や習得を通じて、多種多様なコミュニケーションをとる事で、真の「多様性を」理解することを目的としている。

日本では、栗栖良依さん（自らも障害者で2020東京パラリンピック開会式・閉会式等のクリエイティブディレクター）が理事長のNPO法人スローレーベルが日本初のソーシャルサーカス事業を2016年より企業や公共団体と連携して様々な形で展開している。

今回の港区主催のフォーラムは、アルゼンチンの団体と世界的サーカスのシルク・ドウ・ソレイユが中心となってブエノスアイレスで開催された「第一回世界ソーシャルサーカス国際会議」に厚生労働省の支援で出席された栗栖理事長とサーカスアーティスト金井ケイスケさんの南米アルゼンチンの現場リサーチと会議報告が主体で、当協会にも出席の依頼があった。フォーラムの概要は以下の通りである。

1. 2019年日本でのスローレーベルの活動の紹介

- ・イタリアから招聘の世界的サーカスアーティストのジャングレコ氏と日本の障害者によるサーカス芸の公演までのドキュメンタリー映画
- ・企業ビジネスパーソン向けのコミュニケーションプログラム
障害者がガイド役となり、サーカスを通じて一緒に体を動かし多様性の相互理解。

2. アルゼンチンのソーシャルサーカス（業界で注目のソーシャルサーカス先進国）

ブエノスアイレスでの国際会議では各国がサーカスを通じて社会に与えた影響の事例が紹介されたが、アルゼンチンでは栗栖氏金井氏が下記2つの団体を訪問した。

- ① CIRCO DEL SUR (BUENOS AIRES)
- ② CIRCO EN MOVIMIENTO (JUJUY)

日本は身障者の支援が主体であるが、アルゼンチンは貧困層の若者の就労支援や児童の教育・就労支援という面が強い。特に両団体共にスラム街からスタートし、路上生活者や学校に行けない児童をサーカス教育を通じて正業に就かせたという歴史を持つ。

アルゼンチンは町々に色んなサーカスがやって来るサーカス文化が盛んな国で、社会支援事業と収益事業を両立させ、全国を回り、アルゼンチン社会に浸透している。

ビデオ映像やHPを見てもシルク・ドウ・ソレイユと提携する等でサーカスレベルも相当高く、アルゼンチンならではの美しさもあった。

3. 今後の日本との関係

今回の国際会議での交流のより、日本側としては、アルゼンチンのように村々に出てサーカスを社会に広めるやり方を参考にしたい意向である。

又、アルゼンチン側は日本の身障者も多くを混じったサーカスを今後の課題にしたいと

の事であった。

当協会に対しては、団体スローレーベルとしては、今回の訪問を機にアルゼンチンと交流を深めたいので、協力依頼があったので具体的事項が出てきたら検討したい。

① circo del sur (Buenos aires) の練習風景



② circo en movimiento (jujuy) の舞台

写真出展元：circo delsur, circo en movimiento

(わたなべちあき：当協会常務理事)